

■取組みの狙い

- ・貸切受注の拡大に向けて、
 - ①お客様へ廉価性の提供（経済貢献）
 - ②手配先の協力会社には、積載率の向上（人手不足）を目指す必要があり、①②を達成することが、当社の貸切受注につながると考え取組みを推進

<従前の受注パターン>

- ・**当日**にお客様より貸切案件を受託
 - ①路線混載便で対応が可能か検討
 - ②自社貸切便で対応が可能か検討
 - ③協力会社で対応が可能か検討
- ①～③の優先手順で仕立てを検討

<課題>

- ・出来る出来ないの受注対応に拘り、
「お客様」の価格へのご要望には応えきれていない
（仕立て金額に上積みし提案（自社都合））
- ・協力会社には、1案件単位での依頼のため、積載効率面や時間拘束の理由から手配出来ない場合が増加

<変更後の受注パターン>

- ・**前日**にお客様の貸切案件を確認（お客様の中には、出荷計画が予め決まっているケースが多い）
- ・当日、前日の貸切案件を含め、**全体受注の案件に対し、行先、積載面を考慮し最適な配車計画**を策定
- ・**お客様に廉価による貸切提案、協力会社には、積載率を考慮した手配が実現**